

1. 高齢者お達者プランの実績について
(2) 高齢者福祉計画第 9 期 1 年目の実績
及び今後の取り組みについて



加賀市市民健康部介護福祉課

令和 7 年 7 月 3 日

第9期計画の施策体系(令和6年度～令和8年度)

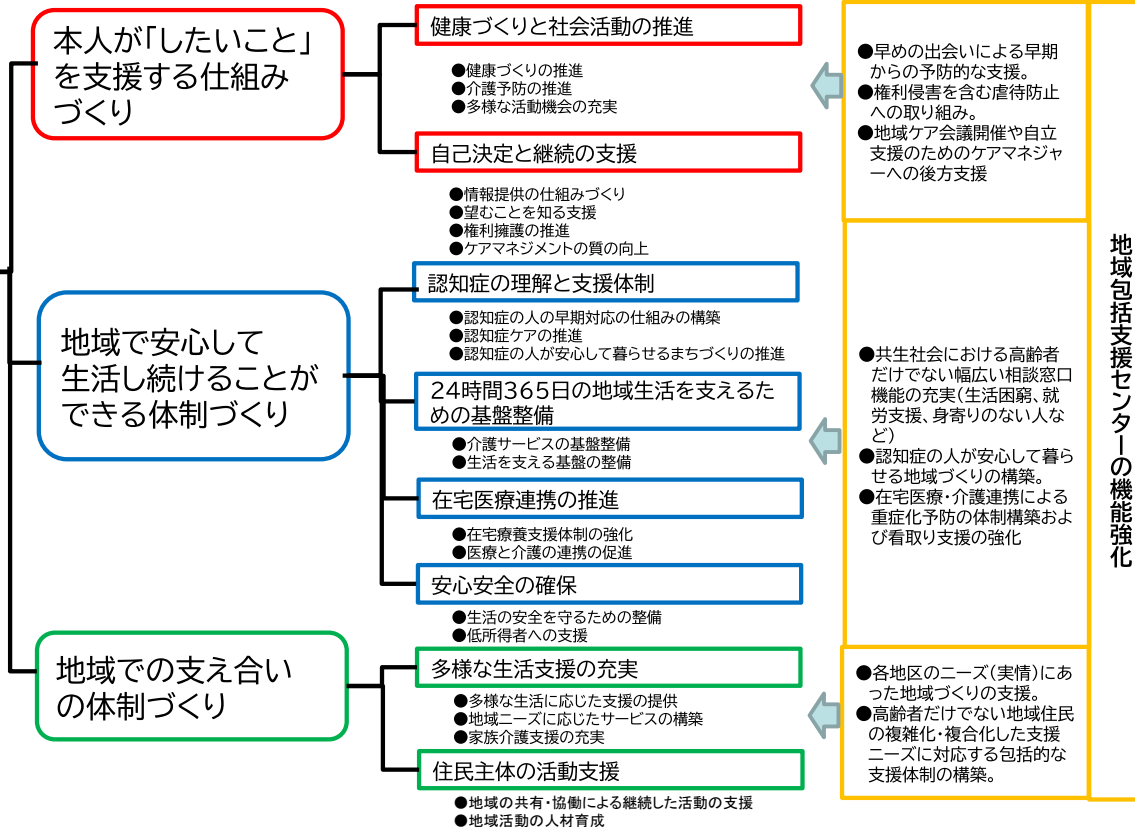
(2024)

(2026)

高齢者が住みなれた地域で支えあいながら、その人らしく、自立した暮らしを継続できる社会を実現する。

基本目標

基本施策



第9期計画の取り組み(全体)

主な重点的課題	方向性
(1). 生活習慣病の重症化予防と介護予防の推進	○ 認定時の主要疾患(認知症、脳卒中、骨折、悪性新生物、筋骨格系疾患)の予防 ○ 生活習慣病の予防(特に脳卒中や認知症にも関係のある糖尿病や高血圧の予防) ⇒ 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業の継続及び実施圏域の拡充 ○ 介護予防基本チェックリスト3年未返信、3年未把握者への生活状況確認の継続
(2). 住民の社会参加促進による支えあい、助け合いの地域づくり	○ 元気高齢者の活躍の場づくりや担い手育成 ○ 地域ケア会議を活かした地域づくりへの展開(ランチによる地域福祉コーディネート)
(3). 認知症の人が個性と能力を十分に発揮できる地域づくり	○ 認知症予防の取り組み(もの忘れ健診の実施、加賀市版脳活性化プログラムの実施) ○ 認知症キャラバン・メイトや認知症サポーターと認知症の正しい理解の普及などの実施 ○ わたしの暮らし手帳を活用したケアマネジメントの推進
(4). 状態が変化しても対応できる柔軟な支援体制の構築	○ 在宅医療や人生をどう迎えたいか等の住民への啓発普及
(5). 本人本位の視点を重視した人材の確保や育成	○ 認知症対応力向上研修(中堅職員向け研修)の継続実施 ○ 生活視点に立った自立支援のケアマネジメントの強化及び推進(軒下マップの活用)
(6). デジタル化推進による生産性向上	○ ケアプランデータ連携システムによる生産性向上の取り組み
(7). 医療と介護の更なる連携推進や医療依存度の高い方等への支援体制強化	○ 医療依存度の高い方等への在宅療養指導支援

第9期計画における重点取り組み①

1. 重症化予防と介護予防の推進

○継続して取り組んでいること

- ①介護予防基本チェックリスト回答者に対し、後期高齢者健診の検査データと照合した上で訪問対象者を抽出し、地区地域包括支援センター(以下、ブランチという)の医療専門職が生活習慣病(糖尿病や高血圧等)の個別指導及び通いの場での健康教育・健康相談を継続実施。
⇒「高齢者の保健事業と介護予防の一体的事業」の実施(4圏域7ブランチで実施)
- ②地域における介護予防の拠点として市内16か所の地区会館で「地域型元気はつらつ塾」を開催し高齢者のフレイル予防に努めている。更には、高齢者の社会参加として元気な高齢者が役割をもって、元気はつらつ塾に参加できるよう協力員活動の声かけを継続的に実施している。
- ③健康づくり事業との連携として、介護予防情報便(いきいきlife情報便)(65歳～69歳:要支援・要介護認定者除く)の送付と基本チェックリスト返信者には、生活習慣病に関する情報(アドバイス票)を同封。
- ④介護予防基本チェックリスト3年未返信者、介護予防基本チェックリストハイリスク者3年未把握者への生活状況把握のための訪問を継続実施。
- ⑤慢性疼痛に対する正しい知識を獲得し日常生活に活かすことができるよう、地域おたっしやサークルリーダー向けに慢性疼痛に関する研修会(痛みらくらく運動教室)を開催。同時に、実技の体操をVR(バーチャル・リアリティー)機器を使って体験。体操を納めたDVDも配布。
- ⑥石川県のモデル事業を受託し、石川県eスポーツ協会の協力のもと、1サークル(山中L.Lくらぶ)にeスポーツ体験会を実施。

○今後、取り組むこと

- ①高齢者の保健事業と介護予防の一体的事業の実施圏域の拡充(4圏域→5圏域)
- ②研修を通してサークルリーダーの負担を軽減しつつ通いの場参加率の向上を図っていく。

第9期計画における重点取り組み①

◆高齢者の保健事業と介護予防の一体的事業における健康教育



ある地区では……

・普段、かかりつけの先生にゆっくりとお話が出来ず、こういった地域の集いで医療職と話が出来、具体的なアドバイスをもらって、生活の不安が解消された。

◆痛みらくらく運動教室の開催

神戸学院大学 総合リハビリテーション学部
下和弘理学療法士の講義



◆eスポーツ体験会の開催



eスポーツの一つである「太鼓の達人」を体験している風景(山中LLクラブ)

第9期計画における重点取り組み②

2. 支え合いのまちづくりの推進

◆元気高齢者の活躍の場づくりや担い手育成

○継続して取り組んでいること

- ①運転ボランティアの養成講座を継続実施。(地域型元気はつらつ塾での送迎ボランティア)
- ②家事支援サポーター養成講座(ヘルパー3級相当の内容)の継続実施をしており、シニア活動の更なる担い手の拡充として、家事支援サポーター養成講座の受講年齢をこれまでの65歳以上ではなく40歳以上からとし、幅広い受講体制を整えている。

⇒家事支援サポーター登録者数:**42名**(R7.5時点) (過去の家事支援サポーター養成講座修了者数:**131名**)

○今後、取り組むこと

- ①過去の家事支援サポーター修了生で家事支援サポーターにつながない方を対象としたフォローアップ講座を開催。



家事支援サポーター養成講座(6回1コース)の開催風景

養成講座終了後、
家事支援サポーターさんによる自宅
での掃除支援



サポーター活動終了後の会話も
とっても大切



第9期計画における重点取り組み②

◆地域ケア会議を活かした地域づくりへの展開

○継続して取り組んでいること

- ①山代地区の「山代地区を良くする会」、作見地区の「高齢者が住みやすい我が町を話し合う会」などが、地域住民が地域の課題について話し合う場として継続して活動している。
- ②大聖寺地区では、かがやき予防塾修了生らが集まり、地域のちょっとした困りごとに対し、自分自身が姉御肌のように、困った人に自身が出来る範囲のお手伝いができるばいいのでは!と「大聖寺あねごの会」を立ち上げ、ランチと継続した取り組みに向けた話し合いを行っている。
- ③山中地区では、一人暮らし高齢者の生活課題把握のため、民生委員と協働でアンケートを作成し、調査を実施し、アンケート結果を運営推進会議で民生児童委員に返し、課題解決に向けた話し合いを行っている。
- ④橋立地区では、地域の方と話し合い橋立町にサロンを復活することが出来た。動橋地区では、介護予防拠点施設にて「囲碁を打ちたい」もの同士がランチを通じてマッチングし、囲碁教室が開催されている。



大聖寺地区「大聖寺あねごの会」の活動風景



(動橋地区)
囲碁を打ちたい人同士を地域福祉コーディネート業務にてマッチングし、介護予防拠点施設での囲碁教室の開催が実現



第9期計画における重点取り組み③

3. 認知症の人とその家族をささえる仕組みの推進

◆認知症予防の取り組み(もの忘れ健診の実施、脳活性化プログラムの実施等)

○継続して取り組んでいること

- ①もの忘れの項目に該当された方に、もの忘れ健診受診券を郵送。令和5年度からは通年の期間で受診できる体制や受診券がなくても窓口での申し出で受診ができる体制も整えている。
- ②「加賀市版脳活性化プログラム」の手引きを作成し、サークルリーダー向け研修会を開催。住民がいつでも地域おたっしやサークルに参加し、実施できるような体制を継続的に整えている。
- ③かもまる講座等で、認知症予防についての考え方(予防とは「認知症にならない」という意味ではなく、「認知症になるのを遅らせる」「認知症になっても進行を緩やかにする」という意味)を広く周知している。

○今後、取り組むこと

- ①地域リハビリテーション活動支援連絡会と共同して新たに「加賀市版脳活性化プログラム(第2版)」を作成し、プログラム内容の充実を図っていく。
- ②国立長寿医療研究センターと協働で行う社会実証事業(認知症予防を目指した多因子介入研究(J-MINT))の協力を検討していく。



第9期計画における重点取り組み③

◆認知症の人やその家族が安心して暮らし続けることができる地域づくり (キャラバン・メイトや認知症ケアパスによる認知症啓発活動、認知症カフェ等の整備)

○継続して取り組んでいること

- ①各圏域で認知症サポーター養成講座の実施や、定期認知症サポーター養成講座の継続実施。
- ②認知症ケアパス(わたしの暮らし手帳)を地域での活動団体(地域おたっしやサークル、サロン、老人会、地域型元気はつらつ塾等)に普及啓発したり、市内医療機関や薬局等に配置。
- ③認知症の人やその家族が地域の人や専門家と相互に情報を共有しお互いを理解し合う場である「認知症カフェ(Cog-café)」を定期的に開催し、認知症当事者の声を聞いている。

○今後、取り組むこと

- ①「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が2024(令和6)年1月1日施行されたことを踏まえ、認知症の人本人の声を尊重し「新しい認知症観」に基づき施策を推進するため住民向けに認知症講演会を開催予定。

世界アルツハイマーデー(9月)にあわせた認知症啓発活動

認知症カフェ(Cog-café(コグ・カフェ))



市内商業施設にて、認知症キャラバン・メイトによる声かけ

第9期計画における重点取り組み④

4. 状態が変化しても対応できる柔軟な支援体制の構築

◆在宅医療や人生最期をどう迎えるか等、住民への周知啓発

○継続して取り組んでいること

- ①認知症ケアパス(わたしの暮らし手帳)の普及を通して、今後の人生をどう生き、人生の最期をどう迎えたいかの普及啓発を継続的に行っている。
- ②かがやき予防塾修了生らとともに検討会を開催し、わたしの暮らし手帳の活用についてどのようなしたらよいかの話しあいを行っている。



○今後、取り組むこと

- ①認知症ケアパス(わたしの暮らし手帳)を70歳以上の送付している介護予防基本チェックリストに同封して一斉配布。
配布後は、わたしの暮らし手帳活用講座を圏域単位で行い、理解度を高めつつ、更なる普及啓発を図っていく。

『わたしの暮らし手帳活用講座』開催日一覧

令和7年6月下旬頃配布

①令和7年7月14日(月) 加賀市医療センター	⑥令和7年7月31日(木) 山代地区会館
②令和7年7月18日(金) 市民会館	⑦令和7年8月4日(月) 市民会館
③令和7年7月22日(火) 片山津地区会館	⑧令和7年8月8日(水) 山中総合福祉センター(ゆざや)
④令和7年7月24日(木) 作見地区会館	⑨令和7年8月18日(月) 動橋地区会館
⑤令和7年7月28日(月) 橋立地区会館	(どの会場も14時から15時。同じ内容です)

第9期計画における重点取り組み④

認知症ケアパス(わたしの暮らし手帳)のこれまでの歩み

<参考>



住民、介護サービス事業所、社会福祉協議会等と検討会を重ね、皆様と一緒に作成しました。

平成28年に完成

現在は第3版まで改訂し、皆様にお届けしました。

- 加賀市では「これまで」「今」「未来」に向かってどう生きていくか書き示す『スターティングノート』とし、わたしの暮らし手帳を作成しました。
- 終末期医療も含め、自分がどのように生きたいかを考える機会としました。

【講座にて記入している様子】

【寸劇で必要性を伝えている様子】



令和3年3月号広報の特集記事に掲載しました。



実際に講座で自分の楽しみなどを記載しています。「書いておきたい所から書けるといいね」



自分の経験を劇にするとみんなに書いてもらう必要性が伝わりやすい。



令和7年4月、かがやき予防塾修了生と話し合い、わたしの暮らし手帳をどうしたら活用してもらえようかを考えたり、「もっとこの冊子をみんなにも広めないと」との声をいただきました。

第9期計画における重点取り組み⑤

5. 本人本位の視点を重視した人材の確保や育成

◆認知症対応力向上研修の継続実施

○継続して取り組んでいること

- ①認知症対応力向上研修(中堅職員向け研修会)は平成27年度から実施している。毎年、研修修了者から研修企画委員を募り、支援者自身の課題解決に向けて企画の検討や講師を担っている。令和6年度は隔年実施のため未実施だったが総勢125名となった。

○今後、取り組むこと

- ①中堅職員向け研修受講体制をとって現場の声を反映し、「基礎編」と「ステップアップ編」の2編成とし、受講しやすい体制での開催を検討し、引き続き、更なる職員の質向上に努めていく。
- ②地区高齢者こころまちセンター(ランチ)に、認知症地域支援推進員を計画的に配置し、認知症の人の支援体制の強化を図っていく(令和6年度は4ランチに配置済)

◆生活視点に立った自立支援ケアマネジメントの強化及び推進(軒下マップの活用)

※1:「軒下マップ」とは、本人を取り巻く「人」「もの」「事」「場所」を書きしめたもの。本人のつながりを大切に支援をしていくためのツール。

○継続して取り組んでいること

- ①全体の質向上のため、介護支援専門員連絡会を月1回の定期開催とし、事例検討を通じて軒下マップ(※1)の考え方や本人本位の視点に立ったケアマネジメントの推進に努めている。
- ②個別地域ケア会議において、軒下マップを活用した本人支援について検討している。
- ③主任介護支援専門員勉強会において、スーパービジョン研修を4回1コース実施。

○今後、取り組むこと

- ①主任介護支援専門員勉強会の継続開催。介護支援専門員連絡会の定期開催の継続。
- ②個別地域ケア会議の開催継続。

第9期計画における重点取り組み⑤

◆主任介護支援専門員勉強会



座学

座学終了後のグループワーク



主任介護支援専門員同士による
スーパービジョン研修のグループワークの風景
(4回1コース 20名参加)

◆介護支援専門員連絡会の定期開催



10回 延べ384人が参加

第9期計画における重点取り組み⑥

6. デジタル化推進による生産性向上

○継続して取り組んでいること

- ①介護ロボット・ICT機器等及びケアプランデータ連携システムの導入実態アンケート調査を市内介護サービス事業所に実施し、課題等の把握を行っている。

○今後、取り組むこと

- ①介護事業所における事務処理のIT化を促進するため、ケアプランデータ連携システム等の導入について、介護事業所の職員・管理者向けに、研修会を実施する。
- ②フリーパスの期間において、居宅介護支援事業所と市地域包括支援センター間でのデータ連携システムの運用開始に向け実施を検討していく。
- ③生産性向上に係る研修会を実施(介護サービス事業者協議会に委託)



第9期計画における重点取り組み⑦

7. 医療と介護の更なる連携推進や医療依存度の高い方等への支援体制強化

○継続して取り組んでいること

- ①医療機関や介護サービス事業所のリハビリテーション専門職が中心となり、加賀市の介護予防の機能強化に向け地域リハビリテーション活動連絡会を結成している。
- ②顔の見える関係づくりと、お互いの機能や役割を活かした支援を目指し、多職種を交えた勉強会の継続的に実施している。
- ③摂食嚥下障害認定看護師による摂食時のポジショニングを学び、介護職の医療への視点向上や誤嚥性肺炎等を防ぐための勉強会を実施した。

○今後、取り組むこと

- ①退院後、医療職による在宅や施設等へのアウトリーチ訪問体制の構築し、疾病からの予後予測ポイントに関する指導等を行う。・・・(参考資料1)

◆加賀市在宅医療連携推進協議会&加賀脳卒中地域連携協議会 コラボ研修会

開催日時:令和7年1月30日(木)

テーマ:「独居生活者を地域で支援しよう!!」

講義:GLIM基準について、生活保護について

講演者:加賀市医療センター 管理栄養士

加賀市役所相談支援課 職員

グループワーク:多重問題を抱える患者の退院支援



第9期計画における重点取り組み⑦

◆かかりつけ医等認知症対応力向上研修の実施

【第1回】 27名参加

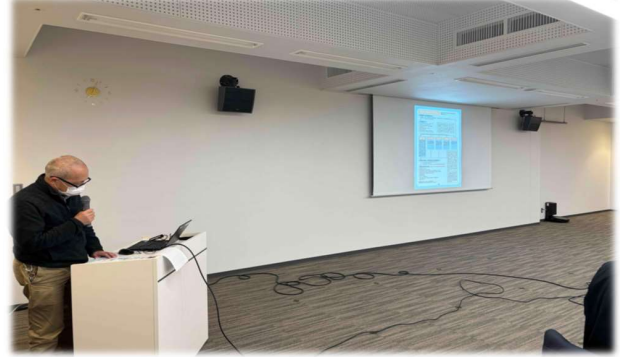
講師：加賀市医療センター 白崎医師
『アルツハイマー病治療薬レカネマブについて』



グループワーク

【第2回】 27名参加

講師：加賀温泉駅前こころクリニック 長谷川医師
『行動心理症状が強い方への、かかりつけ医の対応について』



講義風景

●参加者の感想

- ・レカネマブ導入時の診察や治療の流れが具体的にわかった
- ・症状に応じて薬の影響と副作用について考えることができた

などの声が聞かれました。



◆摂食嚥下障害認定看護師による研修会



講師：芳珠記念病院 菅村摂食嚥下障害認定看護師 参加人数：37名

第9期計画における重点取り組み⑦

◆医療と介護の連携強化

(参考資料1)

●本人の療養生活を支えるチームの結成

★ねらい

- ・退院⇒介護施設等のスムーズな移行のための整備
- ・顔の見える関係性の構築



看護師

■退院後訪問指導料 580点

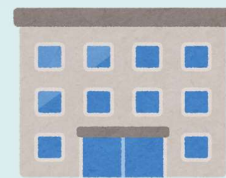
- ・医療ニーズの高い患者が安心・安全に療養生活を継続できるようにする加算
- ・介護老人保健施設は算定不可



医療機関



介護職



介護施設等



①介護施設職員が入院中に医療機関へ出向き、退院後の療養指導を受け、退院後の生活に備える

②担当看護師が退院後、介護施設等に出向き、指導した内容が暮らしの場で実践できているのか助言



介護職員の
スキル向上 ↑

安心した療養
生活の継続

医療と介護の更なる連携推進や医療依存度の高い方への支援体制の強化

第9期計画における重点取り組み⑧

地域包括支援センターの機能強化

○継続して取り組んでいること

- ①複雑化、複合化の相談を受け入れる体制として、障がいのある人の相談支援を行う「基幹相談支援センター」を市基幹型地域包括支援センターに包含し、高齢者だけでなく世帯を含めた相談支援の体制の強化を図っている。
- ②地区高齢者こころまちセンター(ランチ)と障害福祉サービスの相談支援事業所との連携相談体制を構築し、相談支援体制の強化を図っている。
- ③ランチ連絡会やランチ勉強会、面接技術研修やブロック連絡会等を通じ、公平中立を確保しつつ、ランチ職員の質向上を継続的に努めている。
- ④ランチ勉強会に住民(ランチ応援団)をお招きし、担当地区の「我が町自慢シート」を活用し、これからの地域づくりについての勉強会を実施した
- ⑤ランチ活動において、介護保険の申請を直接ランチ事業所から手続きができるよう、事業責任者の機能強化を図り、ランチ全体のアセスメントの維持・向上に努めた。

○今後、取り組むこと

- ①ランチ連絡会やランチ勉強会を継続開催し、相談専門職としてのスキルアップを図る。
- ②ランチ未設置地区においては、身近な地域でいつでも相談できる拠点の拡充に向け、計画的な配置に努めていく。
- ③生活を支える「自助」「互助」の考えを積極的に取り組み、ランチ同士が
お互いを認め合いながら、地域住民とともに「個から始まる地域づくり」を進めていく。



第9期計画における重点取り組み⑧

◆ランチ勉強会(実践編)の開催

令和6年12月23日 市民会館大ホール 参加者:56名
ランチ職員のみならず、ランチの応援団(地域住民)にも勉強会への参加を声かけし、住民とともに勉強会を開催。

ランチって、住民みんなの声を拾って、こんなに頑張ってたんやな。



住民も交えたグループワーク



講師の山越氏による応援メッセージ

◆面接技術研修会の開催

令和7年1月28日 市民会館大ホール 参加者:35名



加賀市地域包括ケアシステム構築に向けた相談支援体制のあり方

<参考>

